

NO 4 小杉に新幹線・横須賀線の停車駅を作り、都の西南域の交通の拠点とし川崎の高機能化をはかる

概要

小杉地区は南武線、東横線、目黒線、日比谷線に直結する交通の要所にあり、また周辺に利用可能な大型の土地があり大規模再開発の候補として有望な場所である。従来の都市再開発は行政とデベロッパー主体で行われることが多かったが、今後は住民主導で行うことが肝要と考える。そのためにはまず周辺と沿線の住民が何を望み期待するかを調査し知ることが必要である。

今ひとつこの計画をよりよく完成するため、もうひとつの観点からアプローチしたい。東京都心のビジネス拠点は南下し移動しております。今新幹線と横須賀線の停車駅を武蔵小杉に新設し南武線東横線の乗換駅にすることにより、川崎市と東京南部西部地域の時間短縮と交通緩和を可能にします。新幹線武蔵小杉駅は、東横線、目黒線、南武線、横須賀線と、南武線と交差する各私鉄をカバーする拠点駅となる。横須賀線沿線からの都心西部への通勤ルートとしても有効である

初年度の活動の具体策

- 1 小杉周辺と鉄道沿線の住民の年代別に再開発計画に対する期待と意識の調査。
それをベースに計画をどうするかを討論を行う
2. 新幹線、横須賀線の武蔵小杉新駅設置による時間短縮の可能範囲と波及効果の調査(南武線の快速化を含め短縮範囲を検討する)